

## 田坂広志先生の考える「日本企業の社会貢献七つの心得」とは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先週、東京の経済同友会の同友クラブで「師を囲む会」があり、非常に著名な田坂広志先生からお話をお聞きしました。テーマは「企業の社会的責任とは何か」でした。田坂広志先生はいろいろな本をお書きになっています。その1冊の中に「日本の企業の社会的責任とは何か」について書かれた文章があります。私は、その文章に非常に感銘を受けました。そこで今日は、田坂先生がお書きになられた「日本企業の社会貢献七つの心得」のお話をさせていただきます。
3. 日本にはいろいろな仕事をしている企業がありますが、企業の社会貢献七つの心得の第一は、「企業の社会的責任」です。田坂先生は「企業の社会的責任とは、社会に対して悪しきことをしないことではない。社会に対して良きことを為す。それが、企業の本来の責任である。」としています。これは、CSR（企業の社会的責任）のことです。悪いことをしないように、多くの企業や会社がコンプライアンス室を設置し、厳しい社内規定を制定し、社員の方々が規律を守るような教育に力を入れています。社会に対して悪いことをしないのは当たり前のことで、それよりも社会に対して積極的によいことをなすことが企業本来の責任ではないかと思います。
4. 第二は、「企業の社会貢献」です。田坂先生は「企業の社会的貢献とは、利益の一部を社会貢献事業に使うことではない。本業を通じての社会貢献。それこそが企業の社会的使命である。」としています。いろいろなお祭りに協賛金を出すことやNPOを支援することはもちろんとても大切です。ただ、本業を通じての社会貢献が大事ですので、NPOに支援をするのであれば、NPOの方々と一緒に自分の仕事を共同する（共につくり上げる）。NPOの方々と一緒に自分の仕事を全うするという考えも大事だということです。
5. 第三は、「利益」です。「利益とは、社会に貢献したことの証である。そして、多くの利益が与えられたということは、その利益を用いてさらに社会貢献をせよとの、世の声である。」と田坂先生はおっしゃっています。利益が出ることは悪いことではなく、社会に貢献したことの証である。あまりにも高い価格をつけたり、暴利を貪ったりするのは論外ですが、お客様のために適正な価格をつけさせてもらい、儉約に儉約を重ねて社員の方々に十分な支払いをしたあとに残る利益は素晴らしいと思います。利益とは社会に貢献したことの証であり、多くの利益が得られたということは、

その利益を用いてさらに社会貢献をなささいという世の中の声であると思います。

6. 先日、栃木県経済同友会で、那須塩原市でパン屋さんを営む秋元さんという社長さんからのお話を伺いました。秋元さんは、パンを缶詰めにした非常食を作っている方です。賞味期限は3年ですが、2年たったあたりで缶を回収して、それをアフリカ等の難民キャンプに送るという素晴らしい活動をなさっています。おそらく秋元さんは利益が出たら、その利益を社会還元するためにお使いになっているのではないかと思います。
7. 第四は、「本業を通じての社会貢献」です。田坂先生は「本業を通じての社会貢献を為すために、経営者は、その事業を通じて成し遂げようとしている社会貢献を、明確なビジョンとして語らなければならない。」としています。やはり、語らなければわかりませんので、社長さんや経営者の方は何のためにこの仕事をしているのか・この仕事を通じてどんなことを成し遂げたいのかを明確なビジョンとしてわかりやすいことばで、思いを込めて語る事が大事であると思います。そうすると、社員と志を同じくし、また、社員を励ますことになります。そして、ビジョンを成し遂げたということで社員の方を評価してあげますと、評価自体が目に見えない最高の報酬となり、生きがいとなって現れると思います。このようなことにも企業を経営する方は気がつかないといけないということです。
8. 第五として、「社会貢献のビジョンを実現するために、経営者は、そのビジョンを胸に、志と使命感を持って仕事に取り組む社員を育てなければならない。」社長さんがいくら社会貢献をしてみよう・志と使命感を持って仕事をしようと言っても、実際に仕事をするのは社員の皆様ですので、志を同じくする社員を育てなければいけないということだと思います。それが職業上の能力にも結び付くと思います。能力を獲得するには、社員の方々も相当な努力をしなければいけません。志と使命感があれば能力はいくらでも獲得できます。やはり、一番大事なことは自覚ですね。
9. 第六は、「社会に貢献する社員を育てるために、経営者は、『目に見える 2 つの報酬』だけでなく、『目に見えない 3 つの報酬』を大切にする企業文化をつくらなければならない。」です。これは、働きがいのある職場・仕事で、職業人としての能力を備えた上で志の高い仕事をするということだと思います。
10. 第七は、「志と使命感を持って仕事に取り組む社員を育て、有為の人材を社会に送り出していくこと。それは、21世紀の企業にとって『究極の社会貢献』である。」です。
11. 先週、非常に著名なエッセイスト・評論家であります田坂広志先生からお話をお聞きしましたので、今日は、田坂先生が示された「企業の社会的責任とは何か」についての七つのお考えを紹介させていただきました。皆様はどのようにお考えでしょうか。